

# 寅稻荷塚古墳(深谷市)

ここが寅稻荷神社





## 寅とら稲いな荷り古墳こふん

高崎線岡部駅の北北西一・六キロメートルに位置し、櫛挽台地北端部近くに存する。古墳付近の標高は約五メートルで台地北側の低地水田面との比高は、約一〇メートルである。

本古墳の周囲は、かつて多数の古墳が群れを成して存在していたといわれているが、その多くは、昭和初期の開拓により消滅しており、現在存在するものは、二から三基を数えるにすぎない。

本古墳は、ほぼ東西に五メートルの主軸をもつ前方後円墳で、後円部径二六メートル、同高三メートル、前方部幅三四メートル、同高三・五メートルである。前方部の方が若干大きく高くなっており、終末期の前方後円墳の典型例と言うことができる。埴輪の有無は明確ではなく、埋葬施設は、角閃石安山岩を石材として使用した横穴式石室と考えられている。築造時期は、主体部等が未調査であるため明らかではないが、墳丘等の形状からして、六世紀末ごろと考えることができる。

また、前方部から後円部にかけては、寅稲荷神社が鎮座している。祭神は倉稲魂命うかのみたまのみことという。当社には古獅子頭三基が伝えられており、町指定文化財となっている。

平成三年三月

埼玉県

岡部町





正面が寅稻荷古墳/6世紀末ごろ築造の前方後円墳



さまざまな石造物があった



墳丘上に寅稻荷神社の社殿が見える









境頂の社殿



後円部から前方部方向を見る





拝殿



左側を見る



右手を見る/後円部から前方部へのくびれ部の雰囲気分かる





アップで見る



墳丘の斜面(法面)



こちらは前方部となる/後円部の高さに対し前方部は少し高く、末期前方後円墳らしい特徴を持っているという



社殿の後ろ側



前方部の斜面(法面)を見る



社殿の後ろ側



社殿の後ろ側から正面側(後円部方向)を見る



本殿





前方部後ろ側の裾から社殿を見上げる



遠景から前方部を見る



左手が後円部、右手が前方部/調査隊の第二クルーザーが走る



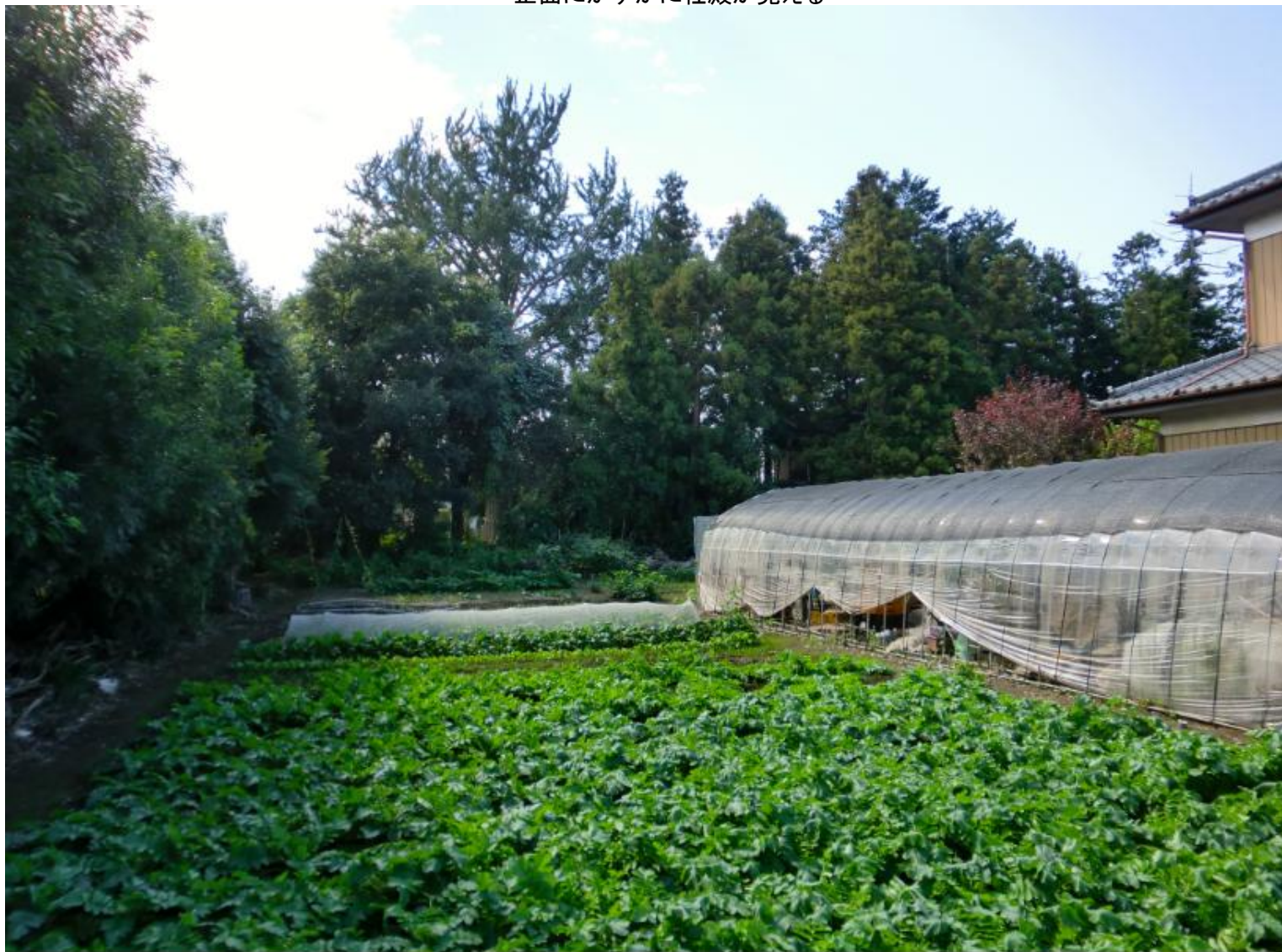
左手が後円部、右手が前方部



左手が後円部、右手が前方部



正面にかすかに社殿が見える



## 参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/okabe/toraina2.htm>

[http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/63\\_okbe/sijyu1.html](http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/63_okbe/sijyu1.html)

<http://members3.jcom.home.ne.jp/kofun2-hp/saifuokab.htm>

<http://paralleli.life.coocan.jp/kofunblog2/?p=58>

<http://glassesmaiden.blog81.fc2.com/blog-category-28.html>

<http://www.ipn-havashi.com/cgi-bin/pidetail.cgi?mode=&title0=四十塚真稲荷古墳&choice0=k1401550&printer=&photoview=59&index=1666&browser=99&column=24&font=20&screen=240&life=>

